

上筒井哀愁

林田 重五郎／随筆家・写真も△



ハンター郎はいつ見ても美しい

やや大きさかも知れないが、上筒井文化といつたものがあのころはあつたようだ。

上筒井は神戸の東の玄関だった。阪急の神戸終点が上筒井一丁目の南側——さっぱりした駅で、食堂があって、阪急ご自慢のカレーライスが十五銭、ウンと空腹なときは、これに五銭のライスを加えて、二杯分を二十銭で食べた。ライスオントーという客もあって、ライスとそれについている香の物と、無料の茶で腹をふくらせた。だれも笑つたりしないところが上筒井文化であった。

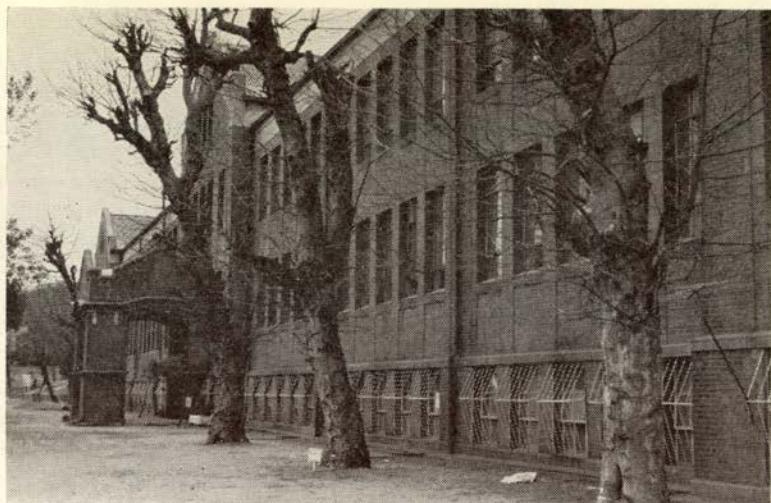
終点を東へ少し進むと、関西学院の正門である。いまも王子動物園の西南角に残っているレンガ造りのチャペルが、正門をはいたすぐ左手にあり院内は原田の森と呼ぶ、樹木の多い学園であった。終点から北へ急な坂を登ると、神戸商業大学である。いまの神戸大学、そのあとは正門もそのままで残つていて、葺合高校になつてゐる。

阪急の終点と、関学と高商（神戸商業大学の前身）とが上筒井文化の柱であるが、もう一本の柱は、この地の利を活用したカフェ群である。上筒井から熊内まで、市電の両側に点々としてならん

◇

でいた。

学生たちも飲まないことはなかったが、客の主力はサラリーマンであった。だから閑学が昭和四年ころ西宮市へ移転し、神戸商業大学が六甲へ移ったあとも、カフェ群は栄えていた。いま神戸で飲みに行こうといえば三宮方面が多いが、当時は



県立教育研修所、昔の閑学中等部、プラタナスは巨木になった。

五十銭タクシーを上筒井へ走らせたものである。安価だったし明るかった。これは学生が客であつたころの遺風かも知れない。

いまの一^流の店で三千円から四千円といった日給のホステスが三宮にいるが、あのころは固定給ではなく、チップ制であったようと思う。そんなことでもめたのであろう、熊内一丁目の南側にあつたPという大きなカフェで、三十人近くいた女給がストライキを企てた話がある。結局は主だつた三人が店をやめ、その筋向いに共同経営でAというカフェを開店した。客たちは面白がつて、応援かたがた出かけたものだが、従業員が経営者だから安いことも安い。ビールも酒も五十銭以下だつた。

わたしも昭和七年から数年間、入りびたりだつたが、今も覚えているのはチップ一回五十銭均一の協定を結び、それも年二回ボーナス払いにしていたことだ。今半期は五十回だから二十五円といつた調子で、上筒井らしいノンキさであった。

この文化が大打撃を受けたのは阪急の三宮乗り入れである。昭和十一年四月二十五日だ。当座は西灘——上筒井間に支線を残していたが、たとえば市電上筒井線の乗客七%減、タクシー激減、阪急の食堂の客六〇%へ、布引から上筒井まで目にいた貸家札十二枚といった調子になつた。

カフェ群も傷手を受け、次第に加納町方面へ移るが、ついで開戦、料飲停止で息の根を止められるのである。さらに戦災で焼野になつてしまふ。上筒井文化は消えてしまつた……。

さてこの跡に、全く新しい王子文化とでもいつ



神戸商業大学の昔の正門、ここを通った人々から大臣や社長もたくさん出た。



上筒井文化の跡、市電路線も消えて行く。

たものを打ち建てたのは昭和三十一年の国体であろう。国体便乗とかなんとか、批難めいた声もあつたようだが、結果はやはりプラスになつてゐるようである。

王子動物園、王子スタジアム、この二つを中心とするこの一帯は、東部のやすらぎの中心といつてもよいほどである。あのとき建設された加納町二丁目から東へ走る道を国体ロードと名づけてゐるところなど、全く神戸らしい楽しさである。

久し振りに王子公園付近を歩いて見た。動物園のサクラはまだ早い。しかし家族連れでいっぱい、入口近くの風船売りのカラーが美しい。夜ザクラ開園は今年はやめると貼り出してある。残念だが、混乱の方が恐ろしいから当然の処置であろう。サクラは外から見ればよい。

動物園の北の教育研修所、昔の関学中学部の建物である。レンガ造り二階建、保存する値打ちは十分ある。わたしも垂水の高商のとき一年間、この借り校舎で学んだが、プラタナスの大木が美しかった。それから四十年、大木は巨木になつて、今も立派に残つてゐる。

その北側には北野町から移築された神戸で最も美しい異人館、旧ハンター邸がある。外から望むだけでもすばらしい。

動物園の東のスタジアム、日曜祝日はいつもにぎやかだ。これほど活用さればスタジアム建設も有意義である。

神戸は東西に長い。東にも、西にも、中央にも、北にも、王子公園式の文化地区が殖えてほしい。そして美しいサクラを咲かせてほしい。

つまらないお話し

鴨井 玲

去る二月一日夜半、私は羽田に帰つて來たが、住所不定で男ヤモメの私には、さてどこといつて行く當てがない。

たつた一人、迎えに來てくれた友人に金を借りて、それから東京・九州・三宮とホテル暮し、やつと最近某所に落付いて仕事を始め出した次第だが、それはそれとして、私は妙に飛行機の中で、いろいろのことによく出合う。

二、三年前北欧から帰る時、飛行機に乗ればもう食事も無料だからと、コペンハーゲンで、それこそきれいにドルを費い果して飛行機に乗ると、日本品の良い紳士の団体と一緒にになった。出された料理を平らげて、久し振りに聞こえる日本語も全部、私には分るので、まことに心地が良ろしい。

紳士達は、「やあ、これで日本に帰れるなあ。オヤ、この飛行機には日本酒があるぞ……。」といふようなやりとりから、日本酒の酒盛りが始まつた。この日本酒はもちろん有料である。すると隣席の紳士が、「君も一杯どうです?」と突然私に話しかけて來た。「こりやどうも……。」と思わず手を出しかけて、はつとした。このような場合、

日本の通例として、返盃という習慣がある。それなのに私は懷中無一文である。「こりやどうも。」をぐつと飲みこんで、「いや少々胃が痛みますので……。」とか何とかいいながら、その盃を押し返すと、その紳士「そりや、いけません。どれどれ私達は医者なんですが……。」どこか学会の帰途であつたらしい。その時の困つた事、おかげで機内の酒盛りを横目に、私は窓の外の雲のかたまりを、やるせなく眺め続けたままであつた。

さて今度、南廻りでパリから再び帰途についた私は、パリの空港で残つたなにがしかのドルを全部友人に渡し、南廻りは暑いからというので、小額紙幣の六弗だけをふところに機上の人となつた。幸い座席は空いていたので、ゆっくり地上を眺めたり、小説を読んだり、時々廻つて来る入国票の難かしい単語を調べたり、時差の関係でやらと運ばれて來る食事を除けば、まことにくつろいだ気分。入国票の中に「SEX」という欄がある。もちろん、男女の性別を記入する欄なのであるが、それに「THREE TIMES A WEEK」と記入した方が昔いたとのこと、学問の余り無い私はそのような心配もない。

とやかくしている中に太陽も落ちて、私もいつしかうとうととしたらしい。それは多分中近東の上空であったろう。ふと何かの気配を感じて目を

あけると、長身金髪の女性がすーっと立つてゐる。良く見るとそれはこの飛行機のスチュワーデスである。寝ぼけ眼の私に一つ大きなウインクをすると同時に、一枚の紙片をヒラヒラと落とし、暗い座席の彼方にすーっと消えて行つた。無細工にも私の鼻にひつかかってその紙片を口でくわえて手に取つて、何事かいなと良く見ると、それは男と女が立つていて空中にハートが舞つてゐる漫画の切り抜きであつた。まことに「ヤヤ……」である。

再び戻つて来たそのスチュワーデスは私の横にソオーッと坐り、「オマエハナニジンデ、ワイフハイルノカ?」などと型通りの会話が始まる。

であるならばと私も得意の似顔などを描けば、「オオワタシノトウヨウノアーチストヨ……」と私の頬にそつと口づけの雨。周囲の座席の人達は深い深い眠りに浸つてゐる機内での出来事であるアラビアの物語りにも何か似たような話があつたよう気がするわいと、私は今、私の足の下にいるアラーの神に深く感謝を捧げたものである。

とやかくしている内に夜は明ける。甲斐甲斐しく朝の食事を配りながら、隙を見て彼女は私の耳に口を寄せて、乗務交替のためにバンコックで降りるからオマエも降りろというではないか。もちろんどこで降りても私は一向に構わぬのだが、なにせ所持金がたつたの六弗ではいかんせん。かえすがえすも空港で渡したドルが残念無念……。

私はそれは悲しそうな顔で「ワタシハニホンデシナケレバ ナラナイ シゴトガアル トテモザンネンデアル」と答えざるを得なかつた。すると暫くして、今度は他のスチュワーデスがウイス

キーをコップになみなみと注いで運んで来る。注文した覚えも無いので「コレワ イカナルコトカス?」と問うと、答えていわく、「ヨワシテ バンコックデ オロシテシマエ……」との指令が彼女から仲間に出来られたらしい。それからというものはコップが空けば、それウイスキー、それコニャックと、朝から夕方まで飲み放題。私は今度はちょうど私の足の下にいらっしゃるお祝い様に、再び感謝の意をしみじみと贈つたのである。

パンコックで遂に別れる時、彼女は他の客はそつちのけで私の手を握り、猫のような目を大きく見開いて別れを惜しみつつ、一通の手紙をくれた。それには「フィンランドのヘルシンキとニューヨークに私は部屋を持っている。何時でも貴方はそれを使用されて良いであろう。以下略……」と記されてあつた。彼女は北欧の人である。

羽田に降りた千鳥足の私はしまらない顔つきで、冷い日本の夜風にぶるんと一つ身振りをしてつぶやいた。

「さてと、これから一体どこへ行こうか? どこへ行くたってエ、どこへ行きや良いんだ……」こんな時仏語では「セ・ラ・ヴィー」すなわち「これが人生さ」とでもいうのであろうか。



鴨井玲氏
<画家>

私にとつて 神戸は神戸

灘 本 唯 人 △カツトも▽

つい最近、私の友人の田中一光、永六輔、和田誠らと大阪の小料理屋で食いかつ飲んだおり、いつしか話題が神戸に集中した。

私が神戸出身だという社交辞令か、それともそれぞれに甘い想い出がかくされているのか知るよしもないが、とにかく驚くべき讃辞で神戸をほめちぎった。

私はどうしたわけか神戸をほめたたえられるたびに、体の部分が熱くなり、ホホに血がのぼるというどちらかといえば気持悪い癖がある。

誰だって生まれ育った故里に対し何らかの愛情を抱くものだが、私の愛情は異常なほど強烈らしい。

御幸通八丁目の風呂屋の息子として誕生した私は、ガキの頃から「そごう」が庭同然の遊び場だ



つたし、また上客でもあった。今のセンター街から元町までが私の縄張りで、呉服屋とか、雑貨屋とか、帽子屋に顔をきかせて、適当に茶菓子の馳走に歩きまわったものである。その頃から三宮の顔ききだという優越感が強く、そのまま三十余年を神戸で過ごした。

こんなところから病的な郷土愛が、リファインされないまま根強く残されているのかもしれない。戦後デザイナーとして出発したうら若き青年の頃、職場が元町という関係で、なけなしの金をはたいて服装にだけ命をかけた。「これぞ神戸人の誇りである」と懷具合を気にしながらも悠然と、しかも、大見栄をきつて夕暮れの繁華街を潤歩したものである。

もちろん、エキゾチックな街なみに合わせてス

一つの色を吟味した。このあたりが神戸人の面目躍如たるもので、むしろそうすることがエチケットでもあった。

神戸の若きダンディたちは私にかぎらず、そんな神経でお互いを意識しあつたものである。

その頃センター街にG線というモダンな喫茶店が出現した。店内のインテリアからパッケージにいたるすべてが、デザイナーである私の美意識を満足させた。やや気取った神戸の有閑連中は一斉に集合し、洒落ぶりを競い合つたものである。

そのはなやいだ雰囲気は戦前の神戸を何らかのかたちで描き出していたし、その中で身をうずめている充足感がうれしかった。（G線をデザインした早川良雄氏がのちの私の師である。）

戦後ようやくおちついた神戸にも、本格的な店舗が建ちならんでいるが、私の好みの店は二、三しかみあたらなかつた。

頃同じくして、神戸新聞社が三宮駅前に移動した。今の神戸新聞会館である。

荒涼とした三宮に一大ビルディングの出現である。驚きと期待でこの建築の完成を待ちのぞんだ。その当時神戸で一ぱん新しく、機能的で、しかも大劇場完備である。私はこのビルに連日かよいつめた。

その頃、神戸新聞社にいた横尾忠則と出合つた。何となく純でどことなく田舎くさい彼を引きつれて、三宮界隈を顔役のように歩きまわつた。彼にかぎらず若きデザイナーたちは私の周辺でゴマスリながら、なれば卑屈に、なれば謙虚に私に接していた。今思えばたいした勢力だったようだ。と思う。

その当時の私を知る友人は、若さを失つてみるかげもなくなつた今の私に「ああ」と驚きのためいきをもらすことすらある。

だがそんなダンディズムも年々必要でなくなつたほど、最近の神戸は堕落しつつあるようだ。久し振りに帰つて昔のおもかげをたずねようのなら、やたら失望するのみで、あの優雅で、しっとり落着いた雰囲気はほとんどみられなくなつた。

「それでもお前は神戸か」と心の片方で囁みついてみても、遙か手のとどかないところへ私の神戸は消え去つたようだ。

そういえば、私の友人と語り合つた神戸も、今はなき昔の神戸で、フロインドリーブだのトーアホテルだの忘れられた名称が飛びかよつていたような気がする。それそれが若いつもりで話しても、一昔も二昔も前の想い出にすぎないかもしれない。

堕落しようが、身を売ろうが、私にとつて神戸は神戸である。私自身若さを失つて変つたように、神戸は若さを取りもどして変つたのだろう。ともあれ、年とつて気心のしれた都会でゆっくりとくつろいでみたいのが私の夢である。

そのころ、港のみえる高台に私はスペースを確保できるのだろうか……。

昔のように「そごう」から「センター街を」我家庭としてなつかしみたいものである。

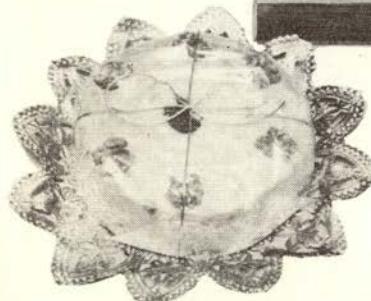
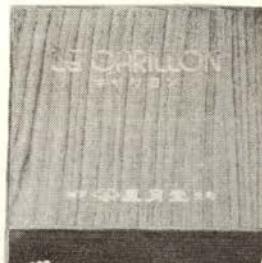


氏人唯本灘^イラストレーター

古くて 新しい味

キャリヨン

フランス風伝統の味覚を!
鍛えぬかれた技術と最高の原料でご満喫
いただける最高級のケーキ……



¥ 100
¥ 500
¥ 1,000

神戸にそだって 70年



元町 3 丁目 TEL 092412-5
さんちかスイーツタウン TEL 093455

ちゃんがら庵



きものと細貨

ちゃんがら庵

神戸

西 店/三宮センター街・電話 33-8836 (代)

東 店/三宮センター街・電話 33-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 39-4303

東京

銀座店/銀座並木通・電話 573-5298 (代)

渋谷店/東急本店・電話 462-3409 (直)
(5 階和装名家街)

日本橋店/東急日本橋店・電話 211-0511 (代)
(4 階和装名家街) (内線294)

街に若いシンボルづくりを

岡部誠一／株式会社そごう神戸店店長▽

滝川博司／兵庫トヨタ株式会社取締役▽

★神戸っ子気質をあらわす百貨店の二極文化

岡部 最近は自動車が多くなりましたね。昭和39年に私が神戸店に来た時分は、大阪のミナミから野田阪神を経て一国を通り大物から二国に入つて一時間ちょっとで神戸まで来ましたが、今は高速道路と環状線ができるもす

ぐに自動車がいっぱいになりますね。ここ一年ぐらい自動車のことが新聞に載らない日はなかつたですが、この頃は流通革命というのか、百貨店やスーパー、専門店などの新しい街づくりが話題になってきていますね。

滝川 自動車業界の場合、企業合同を前提として資本の



岡部誠一氏

自由化があるわけですが、流通業界では資本の自由化はどう対処されているのでしょうか。

岡部 流通業界の方は、スーパーでは企業合併が最近急ピッチで進められていますが、百貨店業界では特殊の例を除いて企業合併までは行なっておりません。業務提携とか、大資本への系列化などの動きなどはあります。また株主が余り株を手放すということがないので、他企業よりは安全性があります。アメリカ資本の場合、百貨店にはそれほど興味を持つていないようです。日本の百貨店の内容を調べて、こんなシンドイ商売はないという（笑）資本進出があるとすれば、スーパーではないかと思いますね。やはり人手の問題が一番大きいですから、滻川 自動車の販売でもだんだん人が減ってきて、アメリカなどでは店頭販売というかカウンターセールスがでてきてているようで、ショウルームをつくって、そこへお客様さんを吸入するという形にならざるをえないと思うのです。

岡部 百貨店でも外商と店頭販売の比率が7対3ぐらいが標準といわれています。これからはお客様にできるだけ百貨店まで来ていただいて商売するのが効果的になってくるのではないか。そうなるとそれだけ百貨店が魅力あるものをより多くつくり出して、お客様に買物をしていただけ楽ししさを満喫していただけの、やはり来てよかつたと満足をいたがるものが必要になりますね。

滻川 日本の各都市を歩かれて、神戸の購買者心理など特徴的なものがあるのでしょうか。

岡部 一般論ではいろいろ言えますが、神戸はファッショニ性が強いのでシャレタものが売れるといわれています。これは神戸の発展してきた歴史と、この風土に關係していると思います。新しい言葉で二極文化という言葉があつて、神戸店でも7階に掘出しものを含めて売るという経済性と、他のフロアでは、ファッショニ性すなわち消費生活のリード役としての役割、この二つを組合

わせているわけですが、ファッショニ性も経済性にも両方とも神戸っ子は強いです。

滻川 ファッショニは神戸が一番ええというので、東京大阪からでも神戸に買いに来るという話を聞きますが。岡部 メーカーは非常に神戸に関心を持つているようですが、神戸でどういうものが売れるかを実によく調査しています。神戸っ子はファッショニを選択するのですが、神戸は情報収集の場であるという考え方があるはずですね。たとえそれが六本木や大阪で流行っていても、神戸では必ず選択されて流行らないものもある。東京の店が神戸に店を出す場合、もちろん儲けもあるでしょうが、神戸で売れると来年からは量産に入る。それだけ神戸っ子の眼はきびしいのですね。神戸では外人を見慣れていよいし、山と海の町、それが色に対する感覚をするところしているのだと思います。

★街づくりの核になるための冒険を—横浜、広島に進出

滻川 神戸の立地条件を考えると、大阪という大都市に接しており、東西に細長い地形です。だから経済が、面で発達しないで線でしか発達しない。その上、百貨店が街の核になって人の流れが三宮に集中する。神戸の場合六甲、長田の副都心づくりがありますが、この人の流れを行政サイドの問題として捉える必要がありますね。

岡部 神戸商業界のそういう問題を取りあげて、商工会議所から神戸市の方へ、会議所の決議として要望書を出しているのです。私どもの店でも横浜、広島に申請をして、横浜は七万四千坪が百貨店として許可されたのですが、国鉄の西側は、十数年前、高島屋さんが進出されて非常に発展しているのですが、反面東側は空地ですぐには海があるため、未開発地になっています。そこに神戸式の地下街をつくったり、高速道路を通りして、西側同様開発しようというわけで、地元から、そどうまい、街づくりの核になれ!と言わせて申請したところ許可になつたのです。広島の方も、現在の賑やかな商店街から

せば自然と預金が集まるそうです(笑)

岡部 そういうこともありますね。銀行の方は各地をよく知っていますが、神戸を離れた後で会いますと、神戸が一番ええと異口同音に言われますね。

滝川 住み易いということは誰しも認めていますね。それと原口前市長の画期的なプロジェクトが将来にわたって実を結ぶ時期がくる。その時点では神戸はすばらしくよくなると期待しているのです。私など仕事の関係上、神戸から出ていけませんからな(笑) 神戸がよくなつてもらわないと困りますわ。

★今こそ神戸に、新しい世代の新しいシンボルを創ろう



滝川 博司 氏

岡部 重工業はだんだん省力化に向かっている

はずれたところにバスセンターが改築されますのでその上に、百貨店と地元の商店街ができることになっています。これも賑やかな街にするための核になるもので、多少の冒険はありますが、街づくりの中心の役目ができますね。

滝川 昔の感覚でいうと、百貨店とスーパー、専門店とは互いに利益が相反するのでしょうか、最近は、そぞう

さんちか、センター街の基本的姿勢にしてもシステム

というか、パッケージで発展させようと考えていますね。

岡部 それが、トリオでやろう!ということになつたわ

けです。広島の場合でも地元の発展が主眼ですし、最近

のショッピングセンターの構想は、最初からそのパッケ

ージを意図したもので。これからは、互いに利益を得

ながら地元の消費者に全体としてサービスすることにな

りますね。単独よりも集合体の方が当然効果は増大しま

すし、それが消費者の皆さんにアピールする、当然人の流れも変つてくるといった具合になつてくるんじゃない

ですか。

滝川 銀行の支店長の話では、賑やかなところに店を出

し、工場公害の問題で西神、播磨に移つて行く。人の流れをくいとめるものが神戸にあればいいのです。企業側からすると、工場は市街地から離れた、それも瀬戸内沿岸に、本社機能は中央の統制力の関係上東京に移る。ですから神戸中心の独自の企業を発展させることができね。その意味でこれから六甲の工業団地にある程度期待がもてますよ。

滝川 ただ西神、北神のベッドタウンで人口が増えても交通網が発達すると、大阪へ勤めに行く可能性もある。工業団地には、ゴミのない澄んだ空気を利用した精密工業などがいいと思うのです。従業員も快適な居住環境で、トンネルがたくさんできると三十分で神戸に出てこられますしね。

岡部 そういう人たちを神戸に定着させるためにも、ただ神戸には海と山があるだけでは困るわけで、何か新しい世代の新しいものを創造しなくてはと思いますが、これが難しい。神戸のシンボルや、神戸の将来へのビジョンは若い世代の突拍子もないプランの方がいいのではないかと思います。百貨店に対する市民のニードを先取り

するだけの鋭敏な感覚は、昭和生まれの人でないとダメですね。今、私たちだけで考えているのですが、この神戸店の南に総合ビルを建てて三百から五百席ぐらいの文化中劇場をこしらえたら嬉しいなと思っています。市の方では大倉山に中央公会堂を建てて、三宮と神戸駅を結ぶだ円形を都心と考えて、楠公さん、神戸駅周辺、大倉山附近の発展を考えておられるようですが誠に結構なことだと思います。もつとも、私は「楠公さん」の近くで生まれたものですから、あのあたりが昔のようになに繁栄してもらいたいですね。

滝川 高速道路など交通網が発達すると、魅力のない街はたちどころに通過される。山陽新幹線にしても、新神戸駅にひかりが停まるかどうかが問題になっている。須磨浦に人が賑わっても、ほとんどが神戸を通過する可能性がある。神戸のシンボルづくりは人を停めることでなければならぬと思います。また、神戸が東海道、瀬戸内両メガロポリスの接点である以上は、接点の機能を備える必要がありますね。コンテナ、ヤードとかポートターミナルを生かさないといけない。同時に、神戸だけの発展でなく阪神間、関西での神戸の位置づけが大切になる。

岡部

そう考えると、神戸は全く新しい近代的情報産業都市として生まれ変わる。具体的には非常に難しいことで、反面下手をすると関西のベッドタウンになる可能性もあるが、それでは困る(笑)

★ラグビーと陸上競技の先輩後輩

滝川 店長は垂水高商の第一回で大先輩と聞いているのですが、お生まれはどうですか。

岡部 楠公さんの西門の端、橋小学校の前で、六丁目、有馬道、楠公前、大倉山と四つの市電の停留所の真ん中で、私の家は友達の巣みたいになっていました。聚楽館には、私が小学校の時分、三浦環の独唱会がありまして盛況でしたね。関屋敏子が六丁目のY.M.C.A.に来たり、藤原義江も人気がありましたね。そこから神戸一中に進

んで、三、四年の頃からラグビー部に引張りこまれて、垂水高商でキャプテンまでつとめるようになってしまったのです。オリエンタルホテルの安部社長さんにはよくコチしてもらいました。今年はじめて一中、二中の定期戦で三十年ぶりに一中が勝ったそうですよ(笑)

滝川 私は二中で入って途中で兵庫高校になったのですが、陸上競技をしていて走るのが得意なものだから、よくラグビーやサッカーに雇われましたが(笑)岡部 一中、二中とも最初は鶴崎校長が兼任だつたせいでも校風が似ているところがありますね。

滝川 一、二中ともカーキ色の制服が全国的に有名で、高等学校の入学試験では脅威やったそうですよ。

岡部 私の時は、垂水には一年しか行っていない。一年目は上筒井の県商、二年目は王子公園にある関学のレンガ建ての校舎を借りていたのです。

滝川 私は神戸商大になっての第六回ですが、須磨から垂水にかけてすいぶんと変わりましたね。桜木町に生まれて離宮前に移ったのが終戦後なのです。当時は須磨駅から東がずっと別荘地帯でした。

岡部 六、七歳で市電に乗って海水浴ができたのは、全国でも神戸ぐらいではないですか。

滝川 これからは海と山を一体にした観光対策の中でも、私たちも健康なレジャーライフを楽しみたいのですね。

岡部 今は定休日になると家内孝行や思つて映画か芝居に行くことが多いですが。時に生駒山に連れていかれることもあります(笑)学生時代は友人の影響で、毎土曜日になりますとテントをかついで山に登つたのですがもう足がいうことを聞きましたね(笑)前は日曜大工が好きで、会社が終ると鋸をひいておりました。ですから今でも新案が浮かぶと設計図を書いて、試作がよければ家具屋につくらせたりするのです。すわるとこける椅子物をのせると落ちる棚、と子供にひやかされていますが(笑)それと苦心して新案を考えても、いまは誰も感心してくれません(笑)

七〇年代の技術革新展望

諸岡 博 熊
△神戸市企画局調査部副主幹

技術は一つの壁を突破することによってドラマチックな飛躍が期待される。

そこで、四回にわけて、

七〇年代の技術革新の展望をすることとしよう。

それは、①ロボット ②原

子時 ③巨大つり橋 ④超

高層ビル ⑤精密計測

⑥長距離送電 ⑦タンカー

⑧ミリ波通信 ⑨望遠鏡

⑩電子顕微鏡 ⑪光コンピ

ュータ ⑫高速カメラ

⑬高速鉄道 ⑭高速船

⑮極超音速機 ⑯高圧技術

⑰核融合 ⑱MHD発電

⑲酵素などそのほか、ガ

ン・かぜを治す医療、物資の

強度や物性のなぞを追及す

る学問技術を体系的に構築

するシステム工学など際限

がないが、七〇年代にはか

なりの分野で新技術が開発

され、脚光をあびることだ

ろう。

× × ×

コンピューターをさらに前進させ、ロボットにしてしまおうという人工知能の実現は、技術開発のなかでも華やかなものの一つである。自ら考え、学習し、人間のように感覚をもつロボットは機械文明の到着点といわれる。通産省の電気試験所では、ネコ・コイの目一方、機械試験所ではクルマエビを使って情報処理のメカニズムの解明に努めている。これは海洋や工場で作業するロボットの目を作るためにある。言葉を発するコンピューターは電気試験所、京大、明大、日立、富士通などで試作されている。コンピューターと人間が会話する日も遠くはないだろう。

無人自動車は、ロボットを積み中央司令塔からの指令を車のロボットが受信して走行する。機械試験所では時速百キロの無人走行テストに成功しており、本年度は、中央道（八王子→大月間）で実用化実験を行なうこととなっている。近い将来ハイウェイは、自動、無人操縦となることだろう。

②原子時

時間標準の“秒”も原子時にかわりつつある。すな

わち、セシュウム原子の振

動数で秒を定めるため、相

対論効果の心配がなくなり

宇宙空間でも高精度に時間

をはかるようになった。

また、人工衛星の誘導技術

ピンポイント・ランディング

がも正確な標準時間がある

からこそ実現したものとい

えよう。

③巨大つり橋

昔のつり橋は風や地震に弱かつたが、今日では鋼材

の進歩、土木理論計算にコ

ンピューターの使用などに

よって、橋脚間隔の最大部

分が、一、五〇〇メートル

という巨大なつり橋が、資

金面を除いて実現可能とな

ってきた。さらに、下部工



神戸商工貿易センタービル

欧洲の名門ネクタイ



アルビタイ



ラコタイ



ペロタイ



西ドイツ製ネクタイ

日本販売元

元町バザー

神戸・元町1丁目 TEL (33) 1401-7031

東京・ 東急百貨店 渋谷・日本橋

* 向い側の仮店舗にて営業中

格調ある仕立て個性的な装いを



O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106



お茶を飲みながら楽しめる一水と光と音楽のコンピューター噴水

須磨浦ドレミファ噴水パレス

日本歌劇団公演

ダンシング・ショー 全7景

4月1日→5月10日 (40日間連日開催)

- 休日・平日共=毎日4回公演
(11時30分・13時30分・15時30分・17時30分)
- 入場料=大人250円・小人100円(4月1日~5月10日)
但し平常料金=大人200円・小人100円
- コース=ロープウェイ・カーレーター・観光リフトで
お楽に行けるドレミファ噴水パレス
- 便利でお徳な山上割引回遊券発売(上記全コース含む)
大人620円・小人380円(4月1日~5月10日)
但し平常料金=大人580円・小人380円

須磨浦公園駅下車

山陽電車

ご家族づれで楽しめる

春の須磨浦カーニバル開催中

5月17日まで

須磨浦ドレミファ噴水パレス撮影会

- 4月25日(土)18時20分~19時まで

野草採集ハイキングと山菜料理(4月26日)

- 会費=700円(定員50名・満員次第締切・小雨決行)
- 須磨浦公園駅9時30分集合→須磨浦背山コース→須磨
寺にて山菜料理賞味

第10回春の須磨浦写生大会(幼・小・中学生)

- 期日=4月26日(雨天29日)・5月3日(雨天5日)
- 画題=春の須磨浦公園・須磨浦山上遊苑一帯

義経と歩くハイキング(5月17日)

- 会費=200円・須磨浦公園駅9時30分集合
- 源平史跡めぐりコース・小雨決行

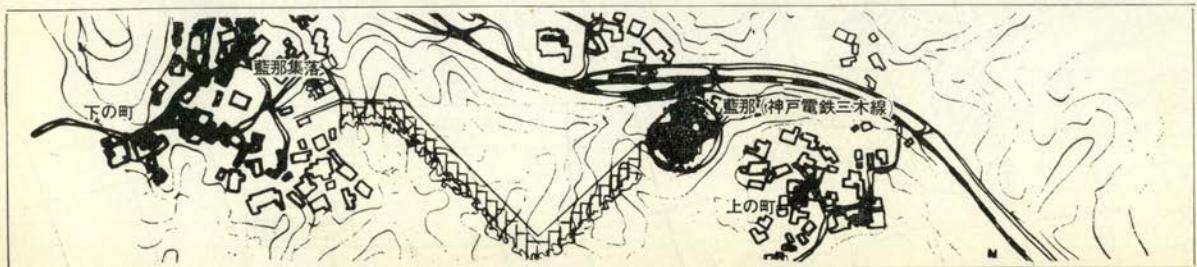


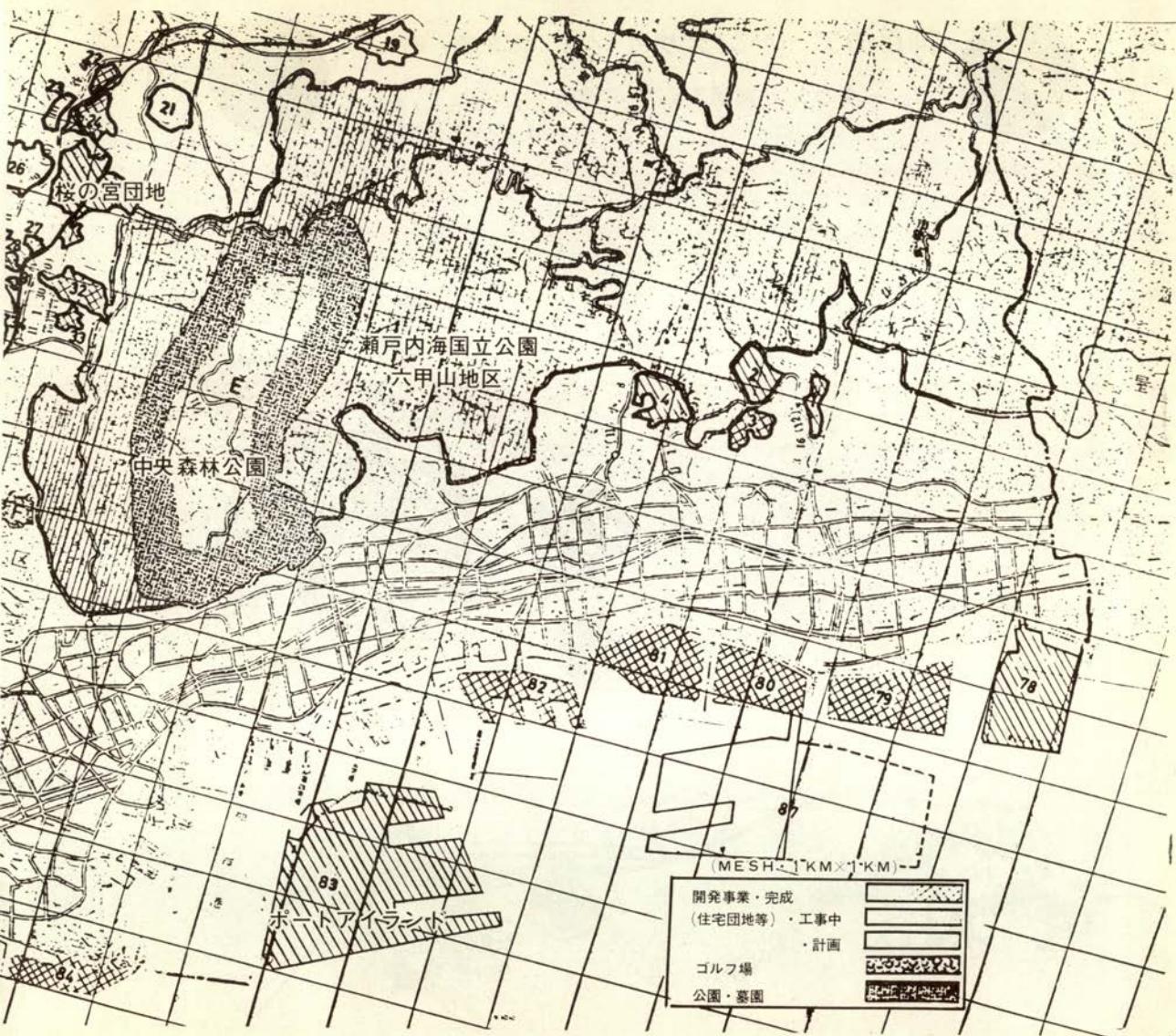
★六甲背山にいくつもの住宅団地がつくられ、計画中のものもたくさんあります。一方、山のふところに抱かれて、古くからの集落が点在して、昔ながらの生活が続けられています。

同じコンクリートの箱の中で、同じスタイルの同じような人達の生活が、日本全国どこでも同じように続けられるニュータウンと称する住宅団地は、自然と密着した土地の歴史や生活の歴史に無関係な環境です。

朝の仕事を終えた農家のおかみさんが、とれたばかりの野菜を車につんで広場にやってきます。果物やつけものももった人もきます。四季の花々も朝市の色どりを豊かにしています。市街地からパン屋さんも店をならべるかもしれません。

集落とニュータウンをつなぐ位置にこうした朝市が開かれ、自然の豊かな生活をニュータウンの人達も知ることになるでしょう。山の緑につつまれた美しい環境の中には、美しい優雅な生活が必要です。スマートでエキゾチックな近代的都市神戸の海に面した生活に対して、山に抱かれたもうひとつの新しい神戸も大切にしたいものです。





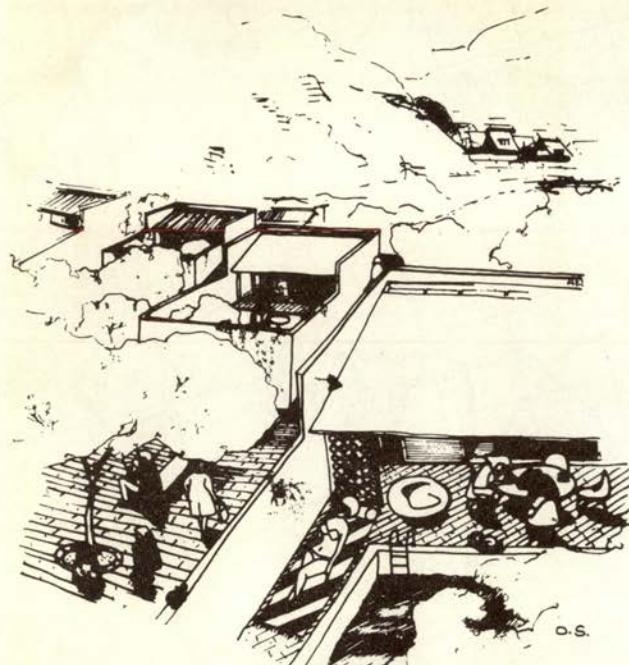


神戸のモダーンリビング ③ 未来編 ②

集落の間のセカンドハウス——チーム・UR

山

(イラスト・白井おさむ)



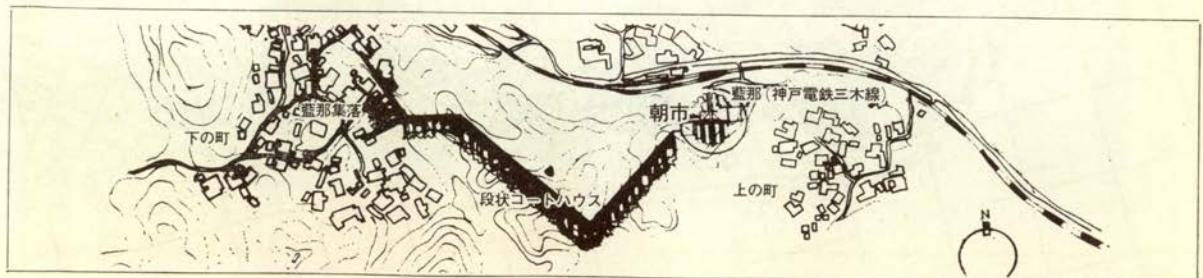
★ニュータウンと集落の関係は、今までほとんどありませんでした。

ニュータウンは山をきりひらき、道をつくり街へ働きに行く人達のねぐらをつくることが中心でした。

自然の中に、自然を生かし、自然とともに昔から生きてきた集落には、土地に生活の歴史がしみこんでいます。

集落と集落を結ぶ丘にそって、緑にうすもれた新しい家—セカンドハウス—は、集落の人達とのコミュニケーションを大切にしたいものです。ニュータウンにない、自然に刻まれた人間の営みをつくることのできる新集落なのです。

新鮮な野菜・農村舞台や村の鎮守様は、新集落の人達を週末に、本来の人間の文化ということを考え直すきっかけをつくってくれることでしょう。



人間味あふれた
手づくりの美しさ…



インテリアの
不二屋

ショールーム 神戸市生田区三宮町3丁目5番地
<トア・ロード> 神戸(078) 39-0535 (代)

葺合工場 神戸市葺合区旭通1丁目10番地
小東山工場 神戸市垂水区多聞町小東山975ノ1

GENERAL  ELECTRIC

水屋兼用になる

大型冷蔵庫

特約販売中



輸入家庭電化製品

神戸唯一の G E 特約店

輸入電化製品の
修理も致します

リヤチ産業株式会社

三宮・トア・ロード TEL (078) 33-8673



楽しい子供の日のプレゼントに……

ヒロタの
カブトチョコレート

洋菓子のヒロタ

元町店・三宮店・さんちか店・そごう店